

科目名	図書館サービス概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	AHクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：情報技術の進展により図書館が提供するサービスにも質・量ともに変化が伴う中で、図書館は利用者のニーズに応じて、さまざまなサービスが行われている。本科目では、図書館サービスの構造、意義等の概説と特徴的な図書館サービスの事例を紹介し、将来求められる図書館サービスのあるべき姿を考える。

科目の概要：社会や利用者はどのような図書館サービスを求めているのか。他方で、図書館は社会の変化に伴い、どのようなサービスを提供しているのか。本科目では、図書館サービスの構造や意義・図書館サービスの事例を解説する。また、社会の変化に伴い、図書館サービスがどのように変化し、利用者のニーズに応じてきたのかを歴史的に考察する。

学修目標(=到達目標)：授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館が提供しているさまざまなサービスを理解し、意義と方法を説明することができる。
- ・館種による図書館サービスの特徴や違い、利用者の要望を理解し、望ましい図書館サービスを説明できる。
- ・近年の図書館サービスの課題を踏まえ、将来図書館に求められるサービスについて、自分の考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：図書館サービスとは何か？
2	図書館サービスの意義・種類(1)：利用者・館種別サービスの特徴
3	図書館サービスの意義・種類(2)：先導的な図書館サービス
4	図書館サービスとマネジメント：図書館サービスの設計
5	図書館利用者調査：事例と設計
6	図書館サービスの変遷・歴史
7	資料提供・閲覧サービス
8	貸出・返却の方法
9	読書案内・ブックリストの作成
10	利用対象に応じたサービス(1)：利用者の発見、サービスの構築
11	利用対象に応じたサービス(2)：高齢者、障がい者、多文化サービス等
12	図書館の経営とサービス：業務委託・指定管理者制度
13	図書館の利用空間の創造：利用者へのコミュニケーション、広報活動
14	図書館サービスの未来を考える
15	まとめ

評価

授業中・後の課題(40%)、授業への参画・発表(10%)、試験(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】「図書館概論」履修時の教科書『図書館概論』（日本図書館協会）を用いて館種ごとのサービスを考える。

【事後学修】授業で提示した推薦図書や参考文献を参照しながら，配布資料（プリント）の確認，ワークシート課題に取り組むこと。自分自身の意見や考え方を整理すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・前川恒雄『貸出』日本図書館協会，1982(図書館員選書,1)
- ・渡部幹雄『図書館を遊ぶ』新評論，2003
- ・柳与志夫『千代田図書館とは何か』ポット出版，2010
- ・『問いをつくるスパイラル』日本図書館協会，2011
- ・花井裕一郎『はなぼん：わくわく演出マネジメント』文屋，2013

科目名	情報サービス論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	AHクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館に関する科目の1つ。 図書館における情報サービスの意義と種類、その中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について解説する。さらに、それらを踏まえて、発信型情報サービスと図書館利用教育について解説する。 図書館利用者への情報サービスには、どのようなものがあるのか、を意識して学修することが望まれる。図書館における情報サービスに関する基本的知識を修得することを目標とする。具体的には、情報サービスの意義と種類、レファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について理解し、それらを踏まえて、発信型情報サービスなどの新しい動向を理解することができるようになる。

内容	
1	情報社会と図書館の情報サービス
2	情報サービスの意義と種類(1)レファレンスサービスとレフェラルサービス
3	情報サービスの意義と種類(2)カレントアウェアネスサービス
4	レファレンスサービスの理論(1)利用者の情報行動とレファレンスプロセス
5	レファレンスサービスの理論(2)レファレンスサービスの組織・担当者とその評価
6	レファレンスサービスの実際
7	情報検索サービスの理論と方法
8	各種情報源の特質と利用法
9	各種情報源の種類と評価(1)参考図書
10	各種情報源の種類と評価(2)データベース
11	各種情報源の種類と評価(3)ネットワーク情報資源
12	各種情報源の組織化
13	発信型情報サービスの意義と方法
14	情報リテラシーの育成と図書館利用教育
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と授業への参加度(10%)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、次回の授業内容を予告するので、教科書の該当する部分を読んでおくこと(毎回1時間)。

【事後学修】毎回、授業で説明を受けた部分を、教科書の該当部分と講義ノートを照らし合わせて復習すること(毎回1時間)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】中西裕[ほか]『情報サービス論及び演習』、ライブラリー図書館情報学6、学文社

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館に関する科目の1つ。「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開する科目。参考図書の種類・レファレンスインタビューの技法・レファレンスプロセスに関する知識を修得する。さらに、図書館利用者からの分野毎の質問に対して、回答のプロセスや使用する参考図書をはじめとする情報源に関する知識を修得する。そのために、冊子体情報源による調査・発表を加えた演習形式により進める。情報サービスの重要性の理解、レファレンスインタビューの技法を体得し、能力の向上を図ること、質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスの理解、回答のための各種参考図書の特性と利用方法の理解、がそれぞれできるようになる。

内容

1	情報サービスの概要と意義
2	情報サービスの設計
3	レファレンスコレクションの活用と整備
4	レファレンスインタビューの技法
5	レファレンスインタビューの実際
6	質問に対する検索と回答(図書・雑誌に関する情報を探す)
7	質問に対する検索と回答(言語に関する情報を探す)
8	質問に対する検索と回答(人物・団体に関する情報を探す)
9	質問に対する検索と回答(地理・地名に関する情報を探す)
10	質問に対する検索と回答(歴史に関する情報を探す)
11	質問に対する検索と回答(事物・事象に関する情報を探す)
12	レファレンス事例の収集
13	レファレンス事例の分析
14	情報サービスの評価
15	まとめ

評価

授業における課題(50%)と最終課題(30%)と授業への参加(20%)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、次回の授業内容を予告するので、教科書の該当する部分を読んでおくこと(毎回1時間)。

【事後学修】毎回、授業で取り上げた問題について、教科書の該当する部分を確認して、授業の質疑応答をふり返り考察すること(毎回1時間)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】中西裕[ほか]『情報サービス論及び演習』、ライブラリー図書館情報学6、学文社

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	A2クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。他方，図書館にはさまざまな領域の資料（レファレンスブック）が所蔵されている。本科目では，「情報サービス論」の学びを踏まえ，情報の評価や信頼性を踏まえながら，図書館の情報サービスについて，演習を中心に具体的・実践的に展開する。

科目の概要：毎回演習形式で授業を行う。情報サービス（特にレファレンス）において必要とされるレファレンスブックの知識，レファレンスサービスのプロセス，インタビュー技法を踏まえ，レファレンス質問への回答を実践する。また，演習を通して学んだレファレンスブックの評価を受講生同士で行うと同時に，修得した多様な情報源をどのように利用者に伝えるのか，そのプログラムを構築する。

学修目標(=到達目標)：

- ・レファレンスサービスのプロセス，インタビュー技法を習得するとともに，レファレンスブックの種類を理解する。（図書館で授業を行う場合もある。）
- ・レファレンスコレクションの特徴を把握し，質問に応じて活かすことができる。
- ・受講生同士でミニワークショップを行うことにより，レファレンスの回答方法（技法）や複数のレファレンスブックの評価を整理することができる。
- ・発信型の情報サービスを企画し，実践することができる。

内容

1	オリエンテーション：演習方法の説明，情報サービスの種類
2	情報サービスの設計と評価
3	レファレンスインタビューの技法と実際
4	レファレンスブックの種類と特性：図書館の事例
5	レファレンス質問の種類と回答（1）：言葉・事柄・統計
6	レファレンス質問の種類と回答（2）：歴史・日時
7	レファレンス質問の種類と回答（3）：地理・地名・地図
8	レファレンス質問の種類と回答（4）：人物・企業・団体
9	レファレンス質問の種類と回答（5）：総合演習，発表
10	レファレンスインタビュー：ロールプレイ，総合演習，発表
11	レファレンスブックの評価（1）：コレクションの選択
12	レファレンスブックの評価（2）：評価，発表，展示
13	情報リテラシー支援プログラムの設計（1）：事例紹介，設計案の作成
14	情報リテラシー支援プログラムの設計（2）：評価，発表（実践）
15	まとめ

評価

授業中・授業後の課題（50％）、授業への参画・発表の姿勢（10％）、試験（40％）とし、総合評価60点以上を合格とする。授業外の課題の提出を重視する。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当部分を事前に通読すること。

【事後学修】教科書や配布されたプリントに基づき、授業で取り上げた参考図書類に図書館で手に取ってみること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】原田智子『情報サービス演習』樹村房，2012（現代図書館情報学シリーズ,7）

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・毛利和弘『文献調査法』第6版，日本図書館協会，2014
- ・長澤雅男，石黒祐子『レファレンスブックス』日本図書館協会，2011
- ・浅野高史ほか『図書館のプロが教える調べるコツ』柏書房，2006
- ・大串夏身『ある図書館相談係の日記』日外アソシエーツ，1994
- ・高田高史『図書館が教えてくれた発送法』柏書房，2007

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり、その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても、デジタル情報の増加に伴い、データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では、情報検索の基礎知識とともに、利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービス(特にレファレンスサービス)において必要とされる情報検索技術を習得するために、演習形式で情報検索を行なう。本科目では、情報検索の基礎や、各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では、図書・雑誌・新聞記事データベース、電子ジャーナルをはじめ、インターネット上の情報源を取り上げる。また、こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため、毎回演習問題を行なう。

学修目標(=到達目標): 本科目は演習形式で行なうため、図書館における情報検索の理解とともに、実践的なスキルを身につけること。

- ・図書館の蔵書検索、雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。(レファレンスサービスのシミュレーション演習も行う。)
- ・データベースの特徴や長短を理解し、必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション: 図書館における情報検索・レファレンスサービスとは?
2	情報検索の概念, 図書の検索(OPAC検索)
3	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略, 検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事, 論文入手までのプロセス(総合演習)
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書・雑誌記事・論文の検索
10	新聞の所蔵検索, 新聞記事の検索
11	さまざまな情報源(1): 人物, 企業, 団体情報等の検索
12	さまざまな情報源(2): 法律, 統計, 科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作(1): 図書館の事例, リンク集の事例
14	パスファインダーの制作(2): 発表
15	まとめ

評価

授業中・授業後の課題（50％）、授業への参画・発表の姿勢（10％）、試験（40％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当部分を事前に通読すること。

【事後学修】教科書や配布されたプリントに基づき、授業で取り上げたWebサイトに実際にアクセスし検索すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】原田智子『情報サービス演習』樹村房，2012（現代図書館情報学シリーズ,7）

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・毛利和弘『文献調査法』第6版，日本図書館協会，2014
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	A2クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり、その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても、デジタル情報の増加に伴い、データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では、情報検索の基礎知識とともに、利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービス(特にレファレンスサービス)において必要とされる情報検索技術を習得するために、演習形式で情報検索を行なう。本科目では、情報検索の基礎や、各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では、図書・雑誌・新聞記事データベース、電子ジャーナルをはじめ、インターネット上の情報源を取り上げる。また、こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため、毎回演習問題を行なう。

学修目標(=到達目標): 本科目は演習形式で行なうため、図書館における情報検索の理解とともに、実践的なスキルを身につけること。

- ・図書館の蔵書検索、雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。(レファレンスサービスのシミュレーション演習も行う。)
- ・データベースの特徴や長短を理解し、必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容	
1	オリエンテーション: 図書館における情報検索・レファレンスサービスとは?
2	情報検索の概念, 図書の検索(OPAC検索)
3	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略, 検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事, 論文入手までのプロセス(総合演習)
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書・雑誌記事・論文の検索
10	新聞の所蔵検索, 新聞記事の検索
11	さまざまな情報源(1): 人物, 企業, 団体情報等の検索
12	さまざまな情報源(2): 法律, 統計, 科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作(1): 図書館の事例, リンク集の事例
14	パスファインダーの制作(2): 発表
15	まとめ

評価

授業中・授業後の課題（50％）、授業への参画・発表の姿勢（10％）、試験（40％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当部分を事前に通読すること。

【事後学修】教科書や配布されたプリントに基づき、授業で取り上げたWebサイトに実際にアクセスし検索すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】原田智子『情報サービス演習』樹村房，2012（現代図書館情報学シリーズ,7）

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・毛利和弘『文献調査法』第6版，日本図書館協会，2014
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）

科目名	情報資源組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「情報資源組織論」を履修してあること。

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって情報資源組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、情報資源組織化業務の基礎を習得する。
- ・今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。これを学ぶことで、歴大な情報を正しく見極める力をつける。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

<前期：目録法>

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

コンピュータによる目録作成、ネットワーク情報資源のメタデータ作成

総復習

まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法（NDC）』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】目録・分類のルールは積み重ねなので、前回の授業を見直しておくこと。自分が分からなかったことを把握しておくこと（授業では復習から入る）。

【事後学修】宿題でよく復習し、きちんと提出すること。授業中の演習問題も、授業中に解け切れなかった場合は、改めて自分で考えて解いてみる。友人と教え合いながら解くのも良い勉強になる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】和中幹雄 [ほか] 共著『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会，2014

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	情報資源組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	BBクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「情報資源組織論」を履修してあること。

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって情報資源組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、情報資源組織化業務の基礎を習得する。
- ・今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。これを学ぶことで、歴大な情報を正しく見極める力をつける。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

<前期：目録法>

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

コンピュータによる目録作成、ネットワーク情報資源のメタデータ作成

総復習

まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法（NDC）』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】目録・分類のルールは積み重ねなので、前回の授業を見直しておくこと。自分が分からなかったことを把握しておくこと（授業では復習から入る）。

【事後学修】宿題でよく復習し、きちんと提出すること。授業中の演習問題も、授業中に解け切れなかった場合は、改めて自分で考えて解いてみる。友人と教え合いながら解くのも良い勉強になる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】和中幹雄 [ほか] 共著『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会，2014

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	図書館サービス特論		
担当教員名	中沢 孝之		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	AHクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館司書課程の選択科目です。図書館を利用する立場と司書課程の学修という、二つの立場を通して図書館を見ることができるのは、この時期だけかもしれません。その視点を活かして、図書館の役割を考えていきます。

科目の概要

図書館のサービス、図書館司書の仕事及び図書館の実情、課題 地域の中で図書館はどのような役割を担っているのか、住民生活に無くてはならない施設なのか を考えます。また、近年問題となっている「図書館の危機管理」(利用者トラブルや自然災害)も実際の事例をもとに解決策を探ります。

学修目標(=到達目標)

演習が中心です。みなさんには講義を聞き、その中で出される課題について、グループでの議論をしてもらい、具体的な解決策や意見を提示してもらいます。また、事前の課題を通して図書館の“いま”を考えてもらいます。図書館司書に必要とされるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を磨くと同時にチームワークで課題を解決する力を養い、受け身ではなく自らの考えを積極的に発言し、豊かな発想が引き出せる講義を目指します。

内容

1	図書館の任務と役割	図書館で働くこと
2	図書館の任務と役割	地域の図書館の役割
3	図書館の任務と役割	選書+図書館の自由
4	図書館の任務と役割	利用者に愛される図書館、司書を目指すには
5	図書館の危機管理	こんなとき、あなたならどうする？
6	図書館の危機管理	こんなとき、あなたならどうする？ 利用者トラブルが発生したら
7	図書館の危機管理	こんなとき、あなたならどうする？ 自然災害が起きたら
8	まとめ	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価

授業への参加度80%(グループ討議、発表)・課題(レポート等)20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 オススメの本や今まで読んで印象に残った本を6冊紹介して下さい。授業は2日間を予定しています。1日目3冊、2日目3冊を必ず持参してください。あなた自身（もしくは知人）が「図書館で注意されたこと」を書いてください。何が原因で注意を受けたのか、職員の態度やどんな気持ちになったかを具体的に書いてください。【事後学修】まとめのレポートを提出してもらいます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

【推薦書】『みんなで考えるこんなときどうするの？』（日本図書館協会，2014）

科目名	図書館情報資源特論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	短期大学部-司書課程		
学 年		ク ラ ス	AHクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は図書館司書課程の「選択科目」である。さまざまな図書館資料を視野に入れ「参加と協働の図書館」をテーマに講義と演習を行なう。

科目の概要：図書館には、多様な学問領域を背景に多様な種類の資料が所蔵されている。図書館司書は、常に幅広い主題分野にアンテナを張り、利用者の目線を意識して図書館サービスを創造する必要がある。本科目では、「図書館情報資源概論」や「情報サービス演習」を補い、図書館司書として必要な人文科学，社会科学，自然科学・技術等の幅広い分野における知の構造や資料の特性を踏まえ、公立図書館や書店など外部で資料の発信方法を構築する。

学修目標(=到達目標)：授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士のワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

・公共図書館でのレファレンスサービス，大学・専門図書館における研究支援のために不可欠な各分野で使用される代表的な資料，情報源を説明できる。

・多様な図書館資料と利用者とを結びつける手法を具体的に考え，実際の図書館・書店の現場にて利用者の目線を踏まえ展示作業を行う。

内容

1	オリエンテーション：図書館資料の種類，図書館の展示の特徴
2	さまざまな学問分野と専門資料：テーマの発見と特集コーナーの企画
3	資料展示の方法と制作(1)：資料の選書
4	資料展示の方法と制作(2)：POP制作の基礎，方法，利用者の視点
5	資料展示の方法と制作(3)：発表・展示作業
6	情報利用の特性(1)：人文・社会科学分野(地域資料，灰色文献を含む)
7	情報利用の特性(2)：自然科学・技術分野(電子資料も含む)
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中・後の課題(40%)，授業・演習時の発表(20%)，最終課題(40%)とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】地域の書店や公共図書館を見学し，特集図書コーナーに配置されている資料，POP，展示を考える。

【事後学修】制作した特集コーナーを振り返り，POPや選書した資料の評価（自己評価）方法を検討する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】下記以外は，授業時に提示する。

- ・丸本郁子監修『図書館を演出する』メディアアイランド，2010
- ・石川香代ほか『売上倍増！パターンで書く3分間POP』廣済堂出版，2011

【参考図書】下記以外は授業時に提示する。

- ・『ライブラリー・リソース・ガイド』創刊号～
- ・『図書館広報実践ハンドブック』日本図書館協会，2002